

序章

あなたは、

社長の4大疾病

(怠慢・傲慢・自堕落・無知)に

かかったらんですか？

ある日、ジジジッと ヤミ金からのファックスが届いた

本編に入る前に、私がアホ社長真っ只中であつたある日の話を紹介したい。当時、頭の中にあつたのはとにかく金のことだった。借金を返すため、従業員に給料を払うため、取引先の支払いをすませるため、目先の金が必要だったのだ。しかし、銀行はとくに金を貸してくれん状況で、街金からもだいたい借りていた。それでも払わなければならない締め日は次々とやってくる。

そんなある日、「空から金が降ってこんなかな……」と、しょうもないことを考えていたら、事務所のファックスが「ジジジッ」と動き出し、広告チラシをはき出した。

「ブラックの貴方！ 来店不要 即日融資OK！ どなたでも100万円まで融資可 他社で断られた方も気軽にファックスください！」

送信者はヤミ金業者。住所は北海道や鹿児島のもので、チラシの下半分が融資申込

用紙になっていた。説明文を読むと、そこに融資希望額、振込先、連絡先などの必要事項を書き込んで、指定のファックス番号にファックスすれば、それで金が借りられる仕組みだという……。

空から金は降ってこないが、ファックス1本で振込は受けられる。

私はすぐに「100万円借りたい」と書いて返信した。すると、先方にファックスが届くか届かないかくらいのタイミングで電話がかかってきた。

「社長、審査通りました」と。なんとという迅速な対応！ この会社、顧客満足度が相当高いのではないか。

ほんまかいな？ と思いながらATMで通帳を記帳すると、63万円振込があり、残高が増えている。しかし、「100万円借りたい」と申込をしたはずだ。

業者に電話をして、「これ、なんで63万円しか入ってないん？」と聞くと、「あ、すみません社長。利息は先にいただいているんです」と。

つまり、100万円から利息が引かれて、63万円。こちらは3カ月で100万円、1回約33万円ずつ3回返済していく段取りになっていたわけだ。

振り込まれた63万円全部を返済に回しても2回分に足りない。こんな金策ではすぐ

に行き詰まる。冷静に考えればすぐわかるわけだが、当時は目先の支払いをどうにか
することで頭がいっぱいだっただけ。

舞い込んできた63万円で従業員の給料を賄い、ひとまずホッとすする。だが、またす
ぐに金が入用になる。そこへ別のヤミ金から「ジジジッ」とファックスが届くわけだ。

金の奴隷になると 「売上」のことがすら考えられなくなる

これはヤミ金の中でも「システム金融」と呼ばれるもの。1社から借りると、その
情報を共有して、次々と系列業者からチラシが舞い込む。こちらは別で借りた金を返
すため、系列業者かどうかなど考えずにファックスを返信する。

「1社から借りたら、2社も3社も一緒や」と。借金への感覚が完全に麻痺してしま
い、いちばん多いときでヤミ金から1800万円くらい借りていた。

利息だけで500万円。恐ろしいのは、業者の誰とも顔を合わせていないこと。す

べてファックスで申込手形を送り、あとは電話でのやりとりだけ。チラシの住所は大
阪だろうが、鹿児島だろうが、話す言葉は東京弁。

たぶん、私は同じボスの下にいるヤミ金業者の手のひらの上で回されとったのだ。

そして、ヤミ金からの借金が1800万円までいくと、完全にほかのことは考えら
れなくなる。仕事はほぼ手につかないうえ、お客さんの顔が福沢諭吉にしか見えん
くなる。

金に追い回されていると、どんなアホ社長でもいちばんに考えるはずの「売上
を上げるためにはどうすればいいか」ということすら、どこかへ飛んでしまうのだ。

思考回路がやられ、何はなくとも明日の支払い。それをどう乗り越えて、次の支払
いに備えるかが大きな問題になっていく。まさに「金の奴隷」じゃ。

そこからどうやって抜け出していったかは後々明かしていくとして、これから私は
かなり偉そうなことを書く。読んでくれるあなたは「なんでこいつがこんな偉そ
うなことを言うんや」と思うだろう。

じゃが、ヤミ金からの1800万円に、銀行、街金、知り合いから借りた金をひっ

くるめて借金1億円。どん底までいってボロボロになった私が言いたいのは、
「ほんま、今ちゃんとやっとかんと、昔のわしみたいになるで」

ということだけじゃ。

寝ても醒めても金のことしか考えられない金の奴隷。あなたはそうなったとき、どんな気分だろうか。ちょっと目を閉じて想像してみてほしい。

のっ、嫌じゃろう……。

寝ても醒めても「金、金、金」じゃ。仲間はずれていき、従業員からは責められ、取引先とは顔も合わせられん。家族にも確実に迷惑がかかる。

だから、まずは見栄や虚勢を張らんと、今の自分を見つめながら読み進めていってほしい。

ここで最初に紹介したいのは、「アホ社長が必ず罹っている4つの病」についてだ。

アホ社長が必ず患う「社長の4大疾病」とは？

中小零細弱小家業のアホ社長さんは、必ずと言っていいほど大きな病気にかかっている。しかも自覚症状がない。それは社長の「4大疾病」。4大疾病といっても、ガン・脳卒中、心筋梗塞、糖尿病といった、生ぬるい病気ではない。

怠慢、傲慢、自堕落、無知。

これがアホ社長が必ず患っている「4大疾病」だ。

- ・「怠慢」⇨当然しなければならぬことをなまけて、おろそかにすること。
- ・「傲慢」⇨おごりたかぶって人を見くたすこと。
- ・「自堕落」⇨行いや態度などにしまりがなく、だらしないこと。
- ・「無知」⇨知識がないこと。知恵のないこと。学ぼうとしないこと。

私の言う「アホ社長」の定義とは、本来持っているポテンシャルを使い切れてない社長さんのこと。

商いの最前線で体を張っている中小零細弱小家業の社長さんたちは、基本的に高いポテンシャルを持っている。ただ、長く社長でいるうちに、徐々に「社長の4大疾病」

に冒されアホ社長になってしまうのだ。

働く人誰もがその病の種を持っているが、中小零細弱小家業の社長さんほど発病しやすい環境にいる人はいない。なぜなら、大企業の「雇われ社長」のように、株主からのプレッシャーもなく、サラリーマンのように厳しい上司がいるわけでもなく、自分がすべてを決められる立場にいるからだ。

自ら作つたぬるま湯に浸かっているうちに、「怠慢」「傲慢」「自堕落」「無知」の種が根を張り、芽を出し、花を咲かせてしまうのだ。

中小零細弱小家業の社長さんたちは基本的に逆境に強い人が多い。だからこそ、経営資源も、ブランド力もないなかで、ある程度の成果を出せるわけだ。

独立、開業した時点では見込みの顧客もおらず、根拠のない成功への自信があるだけといったケースも少なくない。つまり、逆境が基本スタンス。それが中小零細弱小家業の社長さんのスタート地点だ。

だから、順風満帆になってきたとき、周囲から「成功したな」と言われるようになって、中小零細弱小家業の社長さんは危ない局面に入ったと言える。

安定のなかでぬるま湯に浸かり、「怠慢」「傲慢」「自堕落」「無知」の4大疾病によつ

て、過剰な投資、過剰な調達、個人的な浪費、仕事の邪魔になる色恋沙汰などを起こし、経営を急激に傾かせていくことが多い。

これは、アホ社長だった、当時の私そのものだ。

もちろん、この4大疾病は社長さん本人に大きく発症するが、その影響下にいる社員たちにも多かれ少なかれ、影響する。小さな会社がうまくいくことで、社内全体に「怠慢」「傲慢」「自堕落」「無知」が広がっていくのだ。

破産も倒産もせず、 借金を返しながら復活した今だから思うこと

すべてをなくしたと言っても、私は破産も倒産もしていない。なぜかと言うと、私の借金の保証人を、知り合いや友達、家族が嫌な顔をせずに受けてくれたからだ。

そんななか、私だけが破産や倒産してぬくぬく生きて保証人になってくれた彼らを裏切ることができなかった。

だから、破産も倒産もせずに今でも絶賛返済中じゃ。

もし、あるとき破産、倒産できていれば10年以上経過しているので金融機関からも

普通に借金できているかもしれないが、人間関係がこじれ世間を狭くしていたに違いない。

よって、今でも返済進行形。いまだにブラックで金は借りられない。振り返ってみると逆にこれがよかつたんじゃないと思う。

借金を返済しながら金融機関のブラックリストに載り続ける。おかげで返済はできても金は借りれん。この状態が私を強くさせてくれた。

そこで学んだのは、金を借りられなくても人間はどうやってでも生きていけるといふこと。

金を借りることができないことは、新しいビジネスをスタートするにはさまざまな弊害があった。それでも頭を使えば切り抜かれる。考える力が伸びていった。

全部を失って10年以上経過して思うのは、

「中小零細弱小家業の社長さんは下手に借金できるから、怠慢、傲慢、自堕落、無知の4大疾病を発病してしまうのかもしれない」

ということ。

私たちの頭脳は追い込まれ、崖っぷちに立たされると本人が想像している以上の発想を考え出してくれる。ただし、そのときには大きく分けて2つの選択肢が浮かぶものだ。

「まだまだやってやる！」というポジティブ発想が浮かぶ一方で、「もういいんじゃないか……」というネガティブ発想も浮かぶ。

どちらかを選ぶとき、私たちはついついラクなほうを選択したくなる。

「あきらめてラクになろうよ……」という選択をしたがるのが人間だ。

じゃが、私の経験から言うと、目の前のラクな状況を選ばなかった人にだけ見ることのできる景色が、人生のご褒美として用意されている。

苦しいことに耐えた人にしか見えない楽園がそこにはある！

ラクな選択は、いずれ必ず味わわなければならぬ、きつい状況を先送りしているだけだから。

人間の状態は本当に顔に出る。人相学や人相占いがあり、昔の人は「顔を見ればその人の状態がわかる」と言ったが、経験的にこれは本当だと思う。

私もヤミ金に手を付けてどん底状態じゃったときは、人相が違っていた。写真を見

第1章

社長

とお金

でもそう思うし、当時を知る人にも言われる。金の奴隷になり、荒んだ心が顔に出っただのだからと思う。

何かの奴隷になって自分自身がなくなってしまおうと、顔から覇気もなくなり、人相が変わっていくんじゃないだろう。

しかし、その奴隷状態から抜け出せれば、人間は何度でもやり直せる。

実際、金の奴隷に成り下がって人生ボロボロだった私でも、復活し、同じような深みにハマっている社長さんたちの人生が変わる場に立ち会えるようになっていく。

最後の最後、支えになるのは自分の心と想いだけ。

最後はどうせ死んでいく身なのだから、想いを大切に、好きに生きていけばええんじゃない。